

**2005年 10月改訂 第6版
*2001年 8月改訂
薬効分類 漢方製剤

77

日本標準商品分類番号875200
承認番号等
(61AMY)0405 (薬価基準収載)
薬価収載 1986.10 販売開始 1987.01

ダイ サイ コ トウ (東洋)大柴胡湯 エキス細粒

【組成】

本剤は、大柴胡湯の水製エキスに賦形剤(トウモロコシデンプン)を加えて製したものである。

本剤 6.0g 中

日局サイコ 6.0g 日局シャクヤク 3.0g
日局ハンゲ 3.0g 日局タイソウ ... 3.0g
生ショウキョウ 4.0g 日局キジツ 2.0g
日局オウゴン ... 3.0g 日局ダイオウ ... 1.0g

上記の混合生薬より抽出した大柴胡湯の水製エキス4.0gを含有する。

【性状】

本品は、褐色の細粒で特異なおいと味を有する。(天然原料を使用するため、色調、味、においがロットにより若干異なることがあります。)

医薬品識別コード: TY - 077

【効能・効果】

がっしりした体格で比較的体力があり、便秘の傾向のあるものの次の諸症

: 胃炎、常習便秘、高血圧に伴う肩こり・頭痛、便秘・肩こり・肥胖症

【用法・用量】

通常 大人 1日 3回 1回 2.0g(1包)を空腹時経口投与
年齢症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- 1)下痢、軟便のある患者 [これらの症状が悪化するおそれがある。]
- 2)著しく胃腸の虚弱な患者 [食欲不振、腹痛、下痢等があらわれることがある。]
- 3)著しく体力の衰えている患者 [副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- 1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- 2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。
- 3)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、用法・用量に注意すること。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

1)重大な副作用

間質性肺炎:発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。

* 肝機能障害、黄疸:AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、 - GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

**2)その他の副作用

	頻度不明
消化器	食欲不振、腹痛、下痢等

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。[本剤に含まれるダイオウの子宮収縮作用及び骨盤内臓器の充血作用により流産の危険性がある。]

2)授乳中の婦人には慎重に投与すること。[本剤に含まれるダイオウ中のアントラキノン誘導体が母乳中に移行し、乳児の下痢を起こすことがある。]

6. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

【取扱い上の注意】

薬の品質を保つため、直射日光を避け、できるだけ湿気の少ない涼しいところに保管してください。

【包装】

500g, 2.0g×252包(分包品)

【参考】

原典:傷寒論、金匱要略

参考文献:「漢方診療医典」大塚敬節・矢数道明・清水藤太郎共著
「漢方処方応用の実際」山田光胤著

【文献請求先】

株式会社 東洋薬行 学術部
〒113-0033 東京都文京区本郷6-19-7
TEL 03-3813-2263 FAX 03-3813-0202

株式会社東洋薬行

東京都文京区本郷6-19-7